

まちなか学生シェアハウス「fil」による定住促進とまちの賑わい創出

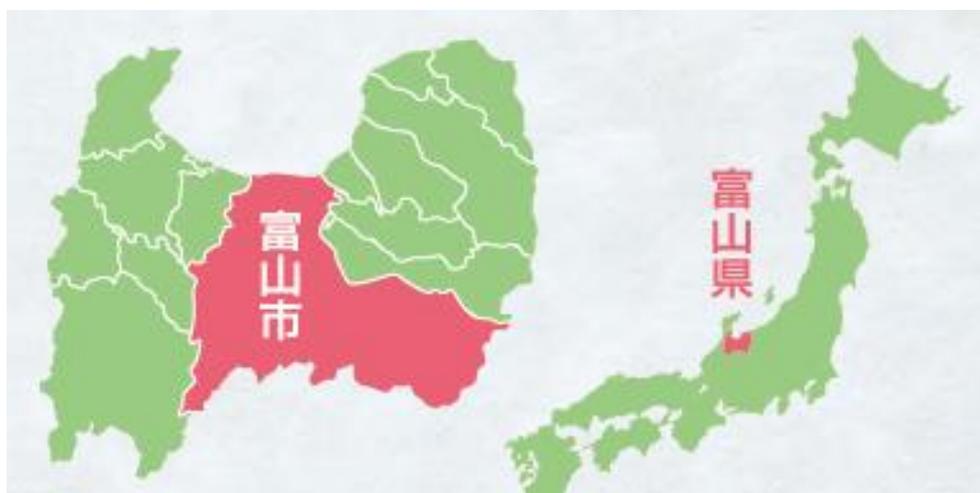
取組のあらまし

取組団体	（株）富山市民プラザ（富山県富山市）
取組内容	空きビルをリノベーションし学生シェアハウス「fil」を整備。「fil」を拠点とした学生と地域の協働によるまちの賑わい創出と学生の定住促進を図る取組
推進体制	11名（うち食堂事業専従8名。パートタイマー含む）（令和6年度）
予算等	13,400千円（令和5年度） （一般管理費と原価。※人件費、減価償却、租税公課除く） 16,000千円（令和6年度） （一般管理費と原価。※人件費、減価償却、租税公課除く）

1 富山県富山市の概要

人口	40万6,483人	令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職員数	2,111人	令和6年4月1日現在（一般行政部門）
総面積	1,241.70 km ²	令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 富山県富山市の位置図



出所：富山市ホームページ

2 取組の背景・目的

(1) まちなか学生シェアハウス「fil」が誕生した背景

まちなか学生シェアハウス「fil」（以下「fil」という。）は、地元商店主や企業など様々な人との関わりをすることで、暮らしや価値観などをシェアできるシェアハウスである。富山市の中心市街地の空きビルをリノベーションし、2022年に整備された。施設の運営管理はまちづくり会社である（株）富山市民プラザが担っている。

富山市では、少子高齢化・学生の県外就職によってまちなかに若者がいないこと、中心市街地の空き物件の増加による中心市街地の活力が低下していることに課題意識を持っていた。

学生が県外に流出する原因のひとつとして、県外出身者の大学生と地域との関係性が希薄な点が挙げられる。例えば、富山市の中心市街地から2.5km離れたところに富山大学五福キャンパスがある。キャンパスに通う学生のうち約5,000人は県外出身者であるが、そのほとんどは通学における利便性の都合から大学周辺のアパートに居住していた。地域とのかかわりがなくそのまま大学生活を送り、大学卒業後に県外就職する割合が高いという現状があった。

こうした現状を受けて、中心市街地と関わりの薄い郊外の大学生の居住促進と、地域との関係性構築による中心市街地の賑わい再生を目指すための拠点として「fil」は誕生した。なお、「fil」はフランス語で「糸」を意味し、「多様な人やモノゴトがこの場で、出会い、共感し、体験をシェアし、新しい価値が紡がれますように」という想いが込められている。

図表 2 「fil」の概要と外観

施設概要	
名称	「fil」
所在地	富山県富山市荒町5-5 (シェアハウス棟/ランドリー棟の2棟)
運営管理	(株) 富山市民プラザ
主要施設	①学生シェアハウス（まちなか学生シェアハウスfil） ②食堂（地場もん屋食堂fil） ③ランドリー（まちなかランドリーfil） ④まちなか庭園

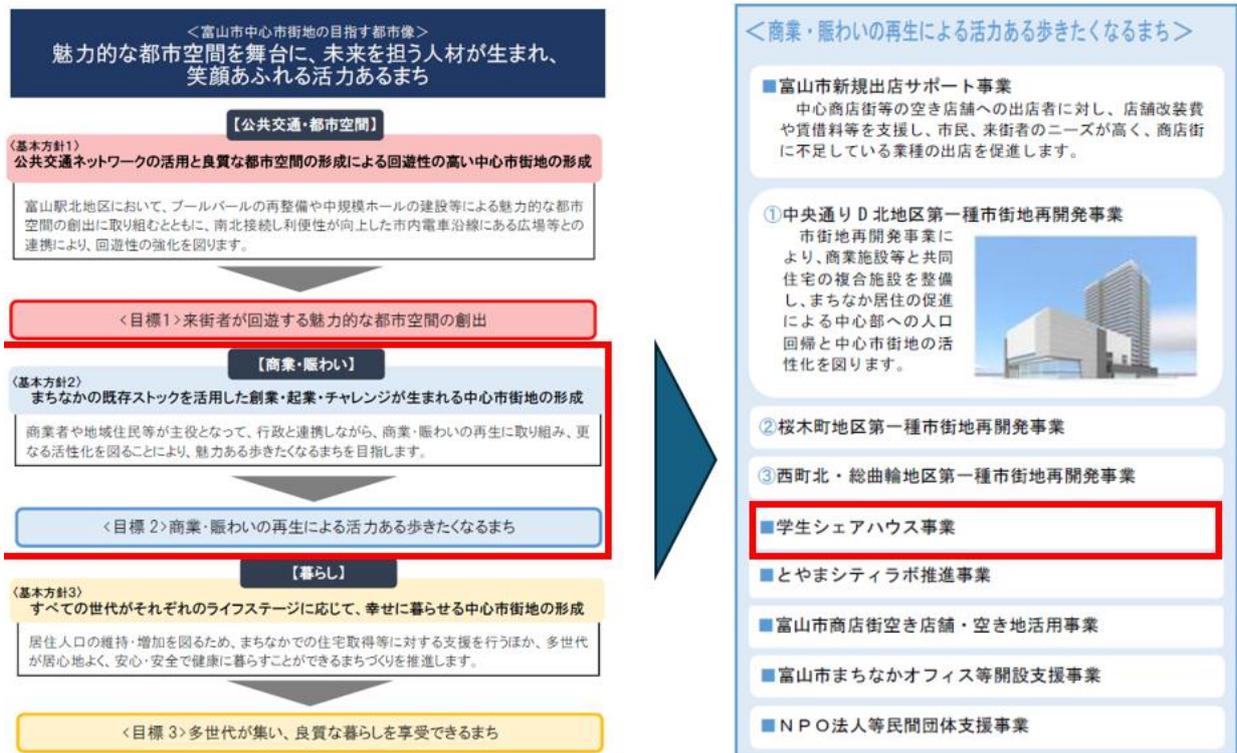


出所：「fil」ホームページより当機構作成

(2) 「fil」の政策的な位置づけ

第4期富山市中心市街地活性化基本計画（計画期間は令和4年4月から令和9年3月。以下「第4期計画」という。）では、富山市中心市街地の目指す都市像を「魅力的な都市空間を舞台に、未来を担う人材が生まれ笑顔あふれる活力あるまち」を掲げている。都市像の実現に向けた基本方針として「まちなかの既存ストックを活用した創業・企業・チャレンジが生まれる中心市街地の形成」を設定している。「fil」は第4期計画における上記の基本方針に沿った事業の1つ「学生シェアハウス事業」に位置付けられている（図表3）。

図表 3 第4期基本計画と「fil」の関係図



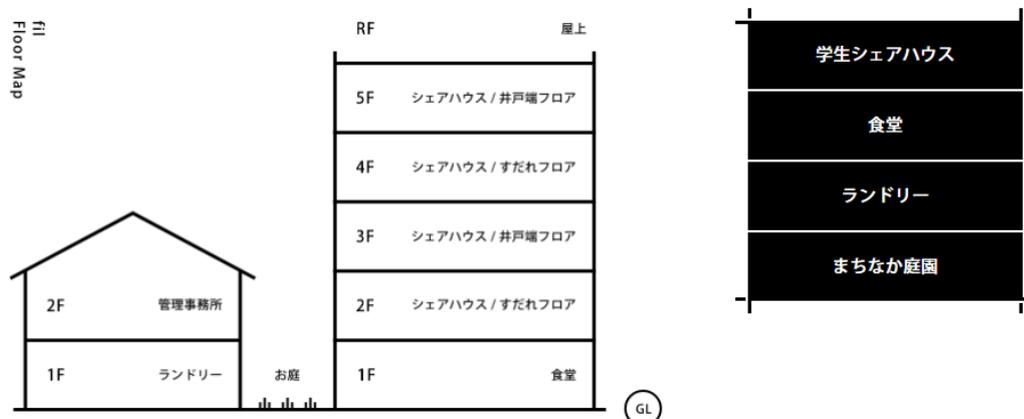
出所：富山市「第4期富山市中心市街地活性化基本計画」より当機構作成

3 取組内容

(1) 学生と地域の方々が繋がる場づくり

「fil」はシェアハウス棟とランドリー棟の2棟から成る、学生シェアハウス「fil」を核として、食堂「地場もんや食堂 fil」、ランドリー「まちなかランドリーfil」、まちなか広場の4施設で構成されている（図表4）。

図表 4 「fil」の施設概要とフロアマップ



出所：「fil」ホームページより当機構作成

シェアハウス棟では、2階から5階を学生シェアハウス「fil」として、全32室を揃えている。1階の「地場もんや食堂 fil」では、地元産の食材を使った食事を提供している。食堂とランドリーはシェアハウスに入居する学生だけでなく、地域の方も利用できるため、洗濯中に食堂で食事をしながら学生と地域の方が繋がるきっかけを提供している。

図表 5 「fil」の主要施設の一例

学生シェアハウス「fil」共用部



まちなかランドリーfil 内観



地場もんや食堂fil メニュー例



まちなか庭園



出所：「fil」ホームページより当機構作成

(2) 学生と地域が一体となったまちづくりの体制とまちづくり活動の具体例

「fil」では、学生と地域との関わり合いを増やす為に、入居する学生に対しては、入居条件として、「まちなかの活動に参加すること」を求めている。学生のまちなかの活動への主体的な参画に期待しているのである。そして、地域の側においても、学生が自己成長できるような充実した活動を行ってもらうために「まちなか学生シェアハウスサポートクラブ」を組織している。「まちなか学生シェアハウスサポートクラブ」は、地元企業を中心に39社が参加している。学生と企業との交流会の開催や学生が行うイベントの資金出資をするなど、学生が充実した活動を送れるようにサポートしている。「fil」では、学生と地域が一体となってまちづくり活動を実施する体制が構築されている。

「fil」を起点とした活動の具体例として、ア meet@fil～企業のTOPと語る会、イ まちなか学生 EXPO を紹介する。

ア meet@fil～企業のTOPと語る会

meet@fil～企業のTOPと語る会は、企業の代表者を招き、まちなかの飲食店からテイクアウトした食事をとりながら学生と企業の代表者の対話を楽しむ会である。月一回程度、平日19時～20時30分に地場もん屋食堂 fil で開催している。

しごと、人生、まちのこと等、対話するテーマは自由である。セミナーや講演会といった一方通行形式ではなく、対話型によるサロンのような双方向コミュニケーション形式で参画意識を高めている点に工夫がある。

また、学生に地域のことを知ってもらおうきっかけとするために、参加率の向上や当事者意識の醸成という点でも工夫を凝らしている。具体的には、学生には講演依頼、広報、予約管理、テイクアウト店の選定、会場設営等の企画段階から当日の運営を担当してもらっている。

イ まちなか学生 EXPO

まちなか学生 EXPO とは、「fil」の学生が主体となって企画実施するまちなかの学園祭である。富山市民プラザが運営する施設のグランドプラザ（市街地の賑わいを創出することを目的とした全天候型の広場）や商店街の空き店舗で開催している。

2024 年度のまちなか学生 EXPO は、「fil」の入居学生や富山大学の学生（ゼミ・サークル）等を中心に、14 店舗が出店した。「fil」の入居学生からは、ヴィンテージ古着からレギュラー古着までを扱う古着販売店や、富山食材を使った豚汁販売店の他、日常の怠惰なエピソードを紹介する「怠惰な学生展」といったユニークなお店も出店された。

「fil」の学生がチャレンジしやすいように、出店にかかる費用は基本的には「まちなか学生シェアハウスサポートクラブ」が負担している点に特徴がある。

図表 6：まちなか学生 EXPO の様子（2024 年度開催）



出所：(株)富山市民プラザ提供資料

4 成果・課題

(1) 取組の成果

本取組の成果として、ア 定住者増加への寄与、イ まちの賑わい再生に向けた機運醸成が挙げられる。

ア 定住者増加への寄与

「fil」は2022年の設立されたばかりであり、現時点の卒業生は1名（2024年3月卒業の第1期生）である。卒業生は、卒業後に富山市役所に入庁し、富山市内に定住している。さらには、卒業した今でも「fil」に足を運び、入居する学生と共に「Cleanup & Coffee Club」の実施を計画する等、まちづくり活動に主体的に参加している。その卒業生は、「fil」の中で経験した市場への出店やワークショップの企画等のまちづくり活動を振り返ったうえで、「fil」を「学生にとって、社会との接点が作られる場」と評している。

「fil」を通じたまちづくり活動が、学生とまちなかの人や文化との関わりしろとして機能し、卒業後にまちに残るということが選択肢の1つとなっている。「fil」には2024年10月1日時点で26名の学生が入居している。今後、卒業生が増えていくなかで、定住者の増加が期待される。

イ まちの賑わい再生に向けた機運醸成

「fil」が起点として展開する様々な活動は、まちなかを学生の活動するフィールドの一つに変化させた。その結果、まちなか学生 EXPO の企画・開催をはじめ、地域商店街や青年会議所等が主催する地域のイベントへの参加等、学生による主体的なまちづくり活動への参画が見られるようになった。さらに、地域事業者が中心となって学生を資金・ノウハウ面から支援する「まちなか学生シェアハウスサポートクラブ」の存在等、まちの賑わい再生に向けて地域として一体感のある体制作りが進んでいる。「fil」は、中心街再生に向けた機運醸成の面で大きな成果をもたらしたことが示唆される。

(2) 今後の課題と展望

今後の課題として、既存コンテンツの自走化による業務負荷の軽減が挙げられる。「fil」を起点とした各活動では、学生の主体的な参加を実現しているが、富山市民プラザの担当職員による伴走したフォロー体制を敷いているのが実情である。例えば、まちなか学生 EXPO では、学生が出店したいお店がイメージできても、備品・資材の調達方法やプロモーションの方法、必要な手続きといった実施に向けた全体像という点では知識やノウハウを有さないために担当職員が支援している。こうした点が、担当職員の業務負荷の増加要因になっている。将来的には各種事業に理解がある「fil」の卒業生に支援に入ってもらうなどして、既存コンテンツの自走化による業務負荷の軽減が課題として挙げられる。

今後の展望として、富山市民プラザは「fil」事業のさらなる拡大を目指している。同社は、まちなかの遊休不動産を活用し、2棟目、3棟目の「fil」を立ち上げることで400人程度の学生がまちなかで暮らす未来を目指している。規模拡大によってまちづくりにおけるプレゼンスの向上や、運営面ではスケールメリット発揮による収支改善を図りたいとしている。

関連・参考資料

「fil」 ホームページ

<https://fil-toyama.com/>

富山市民プラザホームページ「富山まちなか学生 EXP02024」

<https://www.siminplaza.co.jp/?tid=105564>

富山市「第4期富山市中心市街地活性化基本計画」

<https://www.city.toyama.lg.jp/shisei/seisaku/1010738/1011477/1014388/1006519.html>